

## 第3回 清瀬市地域づくり応援制度検討委員会 会議録

### 1 開催日時

令和5年12月4日（月）18時30分から19時30分まで

### 2 場所

清瀬市役所3階 会見室

### 3 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 第1回及び第2回会議の会議録の確定

各委員異議なし。第1回及び第2回会議の会議録が事務局提示内容にて確定となった。

#### (3) 地域づくりの課題についての意見交換

- ・前回の補助金の話で、謝礼の中にボランティア等の継続のために、またモチベーション維持のために少額でも構わないので補助金の対象にすべきと話した。謝礼が責任感にもつながる。やりがいにもなる。人の育成にお金をかけることが必要なのではないか。ボランティア等を発掘するという、人を育てるということに投資すべき。
- ・活動しているスタッフに対しての手当、コーディネートしている人への謝礼を助成金として出せるといい。
- ・地域活動をやっていくうえで参考となる事業が全国にたくさんある。NPOや公的のところも。その知恵を借りるということも大事。オンラインでも取材などできる。ノウハウを教えてもらおうと早いのでは。ケアメンの会というものがある。今男性介護者が増えている。なのに、ケアメンの会の会員は、今は1名になってしまった。人を集めるのが難しい。マーケティングが難しい、なかなかできないのではないか。そういうノウハウをもってくるといい。
- ・それから広報のマーケティングなども、外から人を持ってくるなり、手伝ってもらった方が早いのでは。

- ・男性介護者は敷居が高いところがある。専門的な知識をもっている方に支援していただくのが地域活性化に必要なのではないか。
- ・研修するだけでなく伴走が必要。地域活動をやっている中でつまづいてしまった場合に相談するなどできると良いと思う。
- ・介護者を支援している専門者がたくさんいる。要は、その人たちが個別支援でその人家族だけ見るのではなくて、その方がどういう社会関係、人間関係を持っているか。個別支援をしている介護支援専門員さんとかの人たちが、この人にはこういう場所があったらいいんじゃないだろうかというところで、それがケアメンの人につながっていくのが大事なのは。
- ・男性介護者の特徴として、育児介護の経験がない。介護に成果を求めてしまう。効率化を求めてしまう。地域のつながりがない。弱音を吐くところがない、聞くことが恥ずかしい。などがあると思う。つながりを持つとしない、悩みを抱えこんでしまうといったところもある。
- ・個別支援している人たちにその視点を持ってもらうかどうか重要。社協や地域包括の方がやってもらったりするが。
- ・重層的支援が大事だが。お互い連携が取れていないのでは。
- ・地域活動をしている人達がお互い横の連携がない。横の連携をいかにつくっていくかが必要。それぞれの人が忙しすぎるというものもある。
- ・忙しすぎるとともに、視点がないのもあるのでは。
- ・既存の会があるのであれば、必要なところに関連付けて、今あるところとつながっていけると思う。補助金などは知らないが、でもなんかやりたいという人もいる。補助金の項目の一覧のようなものがあれば新しく何か地域活動を始めるときに一つの目安になるのでは。
- ・どんな補助金があるのか、また申請の仕方もわかりやすく示しているとよい。

- 補助金の報告会がある。そういうものがあるとどんな活動でどのような補助金がもらえるというのがわかる。また、そういった報告会などで、ケアメンの会のような活動を知ってもらうような場を設けるのもよいのでは。
- 地域は一声かけるというのが大事。誰が声をかけるのかということも。
- リンクワーカーというつなげる人をもっと大きく解釈していく必要もある。またつなげる人をどういうふうに育てていくのか。
- 情報発信とどう結びつけるというのがキーワードのように感じた。インターネット上でプラットフォームを作り、参加したい人と団体との間でマッチングする。ボランティアの合同説明会のようなものがあるとよいのでは。参加者がそこに来てマッチングするというのは、形としてつくりやすいのではないか。補助金については、拠点づくり、有償ボランティアの謝礼、地域づくりを始めるにあたってのイニシャルコストを対象にできるとよいのでは。
- 助成金の対象もそうだと思うが。周知する方法も市報だけでなく声掛けや、地域活動の支援の情報交換の場をつくる。今の活動報告の場をつくるとか、地域フォーラムの場をつくるとか、そういうことも大事だと思う。
- いきいきハイキングはすごい人気がある。いろんな魅力があるのだと思う。ただ、下見にもお金がかかる。そういった実費に対して補助を出してくれるといい。
- 地域活動ではどういう人が埋もれているのか。
- 男性の孤立された方はどうにかしないと。
- 民生委員さんが回ってくれるのはすごく大事。訪問活動を地域の中でどうするか。それを地域の中でどうするか。
- 自治会とは別のプラットフォームのようなものを作れるか。例えば円卓会議のような。自治会の連合団体のような円卓会議にはあるように感じるが。

- 自治会がもっと大きな連合体のようなものがあるといいのでは。自治会が小さ過ぎるとお祭りなどのイベントをやるにも立ち行かない。
- 自治会に入っていない人に対するアプローチも考えていかないといけない。プラットフォームのようなものも。
- 委員会がたくさん立ち上がると、いろいろな委員会だとしても、みんな同じメンバーということもある。委員になっている人とそうでない人との情報の格差が問題としてあるのでは。
- 担い手を作るのが大事なのは。
- 地域づくり支援者会議のようなものを作れるといいのではと考えている。
- 地域づくりは楽しい方がいい。活動紹介の場があるといいのでは。
- 社協だよりは年4回発行している。地域活動の紹介をやっている側からの切り口で作ってみるのもよいかも。
- プラットフォームに地域活動の事例紹介があるといい。
- 実際にやっている方の楽しいという感想を聞けるとよいのでは。
- 場面としてどう作っていくのかということ。地域づくりを語る会といったところもあるといい。問題意識を持てる回のようなものを作っていけるといい。

#### (4) その他

次回日程等について事務局より報告をして閉会となった。